

## 『DC』にみる情報技術(IT)の3文字略語

井上 弘行

倉敷芸術科学大学図書館

(2000年9月30日 受理)

## はじめに

Abbreviate には、略するとか、短縮するとかの意がある。

ODA は、Official Development Assistance の頭字をとって略されたものである。これを [ouda] とは発音しないで [ou, di:, ei] という。

一方、NATO は、North Atlantic Treaty Organization の頭字をとったものである。[en, ei, ti:, ou] と発音するのではなく [néitou] と棒読みする。

これは単語をいくつか並べたとき、その短縮形(abbreviation)には、次の2通りがあり、

ODA [ou, di:, ei] …………… initialism

NATO [néitou] …………… acronym

それぞれ、initialism か acronym として、その読みで2つに分かれるということである。どちらも、1つの語として成立するが、前者の場合、無味乾燥な記号列となる。

本論で見て行くのは、この前者の initialism についてである。しかも、それは、3文字のものに限定する。3文字に絞る理由は、棒読みに向かないという点である。そのことは、言葉の性格に欠ける。そして、4文字以上になると initialism になりにくい。棒読みの性癖に偏り、短縮する思惟は揺らぐ。反対に AM や PM のように2文字に略されるものもある。それはサインとして定着し、日常の生活に根付いている。これから見ていく情報処理分野の新語は、歴史的背景が浅くそのまま日常語の世界に持ち込むにはなじまない。

情報系のマスコミ紙(DC: Data Communication)には、ことのほか3文字の略語が頻出する。解説がなければ、すんなりとは読めない。スムーズなコミュニケーションを成立させるには、常に読む意識が欠かせない。4文字以上になるとフルスペリングを並べることにも抵抗ないと思われる。コンピュータでこの3文字の略語を扱う場合、第1文字に占める割合は、重要な意味をもつ。語彙の分布からしても、かなり相当なバラツキがあるのではないかと想定される。

略語の成り立ちには、多様なものがあることは分かっている。ここでは、initialism を、initial の動作名詞で「頭文字から成る」に-ism がついた頭字略語と捉える。そして、ここで扱う3頭字略語は、端的に言えば一種の記号化作用であり、当稿ではこれに関連のあるいくつかの話題を収集したデータに基づき紹介する。

## 1. 調査データ

調査データは、『DC: Data Communication』から拾う。これは、昭和62年に遡ることができる。その前身は、『週刊電波コンピューター』である。可能な限り新しいデータに基づきたいため、許す範囲での最近1年間分を調査範囲とした。

正確を期するには、一つひとつの記事全てを卒読する必要がある。本紙は、週刊紙のタブロイド版である。通常は1部当たり16頁仕立てであるが、特集が組まれると倍近い頁数、さらには40頁になっていることもある。

### データ収集の資料

対象データ 『DC: Data Communication』 電波新聞社発行  
 収集範囲 1999. 7. 5 第588号 ~ 2000. 6. 26 第636号(1年間:49週)  
 総ページ数 848頁

基本的には、上記の記事内から3文字の略語を対象とする。その中には、雑多な3文字も含まれる。情報技術(IT)に該当しないと考えられるものは除外している。要約をすると、取捨選択の条件は次のようになる。

### 3文字略語抽出の条件

(1)記事を1つと数える。

キャプションと記事文は、1つのものとする。さらに同一記事内で複数回出現しても、その引用はそれら全体で1回と捉える。ただし、付帯する図表に引用があれば、それは図、表毎に1を増す。このとき、図表中に複数回の出現は、記事レベルの解釈と同様である。

(2)大文字、小文字の区別は持ち込まない。

例 PPM と、ppm は同種とみなす。

(3)次に示すものは除外する。

・企業名          ・商品名          ・広告欄

(4)英字以外の文字を含むものは除外する。

例 Y2K          R&D          CD-R

(5)略語でない3文字は含めない。

例 TOP          Web

(6)記事の終わりに付帯するURLのWWWは、抽出外とした。

これについては、未曾有の出現となり外した。ただし、本文中での引用は対象とした。

(7)情報技術(IT)関係に絞る。

例えば、LPG(ガス)のように情報技術とは距離のあるものについては、拾っていない。これは、データ資料の性質上、頻度は頗る少ない。

以上のような制約を念頭においてデータの収集に努めた。一番重要と思われたのは、1つの記事に同一略語が複数回出現する場合、それを1つとして数えるか、出現回数分とするかという問題である。それは、記事の量に対する引用の多寡を問う問題であり、一記事内への取り込みを推考するものではない。このことから、何がAbbreviateされているか、ということへの追究では、記事=1件で支障ないものとした。

2. 資料の分析

Abbreviationは、その原語文字の量に特質がある。長いものでは、37文字が3文字までに縮まる。短いものでも9文字が、3文字への短縮で、それぞれ8.1%、33.3%まで短縮する。これは印刷スペースや文字電送において、有効な働きをすることになる。

参考として最も短い略語は、3.63%の長さということである<sup>1)</sup>。

『DC』から抽出した略語の一覧は、当稿(拙稿)の附表(PP. 231-233)に掲げる。総計368種、度数で2,520箇所である。その上位30位に入るものを次の表1に示す。

表1 略語出現回数表(上位30位迄)

順位	略語	回数	語	順位	略語	回数	語
01	ROM	(111)	Read Only Memory	17	POS	(036)	Point Of Sales
02	CPU	(102)	Central Processing Unit	17	TCO	(036)	Total Cost Ownership
02	LAN	(102)	Local Area Network	19	ISP	(031)	Internet Service Provider
04	ERP	(098)	Enterprise Resource Planning	19	PDA	(031)	Personal Digital Assistant
05	PHS	(090)	Personal Handyphone System	21	CEO	(030)	Chief Executive Officer
06	ASP	(084)	Application Service Provider	22	PPM	(029)	Page Per Minute
07	HDD	(067)	Hard Disc Drive	23	DPI	(028)	Digits Per Inch
08	CTI	(057)	Computer Telephony Integration	23	DWH	(028)	Data Ware House
08	USB	(057)	Universal Serial Bus	23	RAM	(028)	Random Access Memory
10	DVD	(056)	Digital Versatile Disc	26	FDD	(027)	Floppy Disc Drive
11	BPS	(052)	Bits Per Second (cf: Bytes~)	27	CCD	(026)	Charge Coupled Device
11	SCM	(052)	Supply Chain Management	27	PCI	(026)	Protocol Control Information
13	CRM	(048)	Customer Relationship Management	27	XML	(026)	eXtensible Markup Language
14	EDI	(041)	Electronic Data Interchange	30	OEM	(025)	Original Equipment Manufacturer
15	WWW	(039)	World Wide Web	30	PBX	(025)	Private Branch eXchange
16	SFA	(037)	Sales Force Automation				

2000年6月から遡って1999年7月までの1年間で、ROMは111回の引用出現である。その次が、CPUとLANの102回で2位を分け合っている。表1では割愛しているが、30位より後には、ISO、DOS、WANが22、21、21の回数で続いている。いま上位30位までのグループをG<sub>L</sub>とすれば、このグループだけで全体の約6割を占めてしまう。これを除いて、少なくとも複数回は出現しているものに限定すると全体の約3割強で、このグループを便宜的にG<sub>M</sub>としておく。残る190箇所には年間を通して1回限りという出現で、全体の1割にも満たな

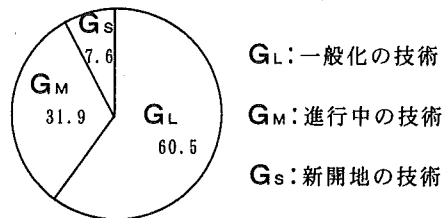


図1 3文字略語分布割合

い。これを  $G_S$  グループとする。 $G_L$  については、使用頻度が高いだけ、既に一般化された技術用語といえる。 $G_M$  はその進行段階、そして  $G_S$  は潜在力を期待できる。図1はこれら各グループの割合を示すものである。

次に3頭字略語のA, B, C, …別種数の分布を捉えてみたい。図2はその度数分布図である。例えば、Aの場合はAAAからAZZが範囲である。

英単語は、「S」で始まるものが最も多いとされるが、図2では「D」が首座である。調査期間が特定の1年間という偏りであろうか。ここには、情報技術に集中した「Digital」の多用が見えるようである。

c	f	k	1				2				3				4				百分率(k)	反復率(f/k)	c:アルファベット	f:出現度数	k:略語種数	
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4						
A	148	24	AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA																6.5	6.17				
B	76	9	BBBBBBBBB																2.4	8.44				
C	360	33	CCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCC																9.0	10.91				
D	220	36	DDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDD																9.8	6.11				
E	188	20	EEEEEEEEEEEEEEEEEEEE																5.4	9.40				
F	49	14	FFFFFFFFFFFFFFF																3.8	3.50				
G	56	11	GGGGGGGGGGG																3.0	5.09				
H	69	3	HHH																0.8	23.00				
I	102	22	IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII																6.0	4.64				
J	7	4	JJJJ																1.1	1.75				
K	11	2	KK																0.5	5.50				
L	163	12	LLLLLLLLLLL																3.3	12.75				
M	55	30	MMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMM																8.2	1.83				
N	7	7	NNNNNN																1.9	1.00				
O	46	10	OOOOOOOOO																2.7	4.60				
P	294	28	PPPPPPPPPPPPPPPPPPPPPPPPPP																7.6	10.50				
Q	3	2	QQ																0.5	1.50				
R	168	15	RRRRRRRRRRRRRRR																4.1	11.20				
S	167	33	SSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSSS																9.0	5.06				
T	76	13	TTTTTTTTTTTT																3.5	5.77				
U	87	8	UUUUUUUU																2.2	10.88				
V	37	15	VVVVVVVVVVVVVVVV																4.1	2.47				
W	98	11	WWWWWWWWW																3.0	8.91				
X	44	6	XXXXXX																1.6	7.33				
Y	0	0																	0.0	-				
Z	0	0																	0.0	-				
			2520 368																100.0					

図2 アルファベット別出現度数

図2から反復率を  $f/k$  とすれば、Hが突出し、次にLがきている。以下、C, P, R, Uが肩を並べている。中でもCは、百分率も高くITに絞ると重要な位置を占めているようである。附表によると、その高頻度はCPUの102回に続いてCTIとCRMで、それぞれ57回、48回の反復を示している。ただし、これらは傾向に過ぎず、普遍を指示するものではない。また、Nのように反復なしもある。

図2では頭字略語の種数は、計368種となっている。この中には、Synonymを含んでいる(附表参照)。例えば、Asynchronous Transfer ModeとAuto Teller Machinesの両者がATMに略語化される。情報記憶としてシノニムか重複の対応には注意を要する例である。

### 3. 3文字略語の性質

抽出データから、その出現頻度が上位のROM, CPU, LANといったものは、情報技術の分野では顔なじみである。それらは原語の提示なしで3字だけが出現しても、不可解な状態に陥ることはない。いま年間を49週で換算すると、週報である『DC』は1報当たり約3.9回の頻度でG<sub>s</sub>の3頭字略語に出会う計算となる。これは年間を通してただの1回という出現頻度で、略語だけの引用では意味の不詳は避けられないであろう。ましてや、そのような対象は初出ということも考えられる。これが一般化されるまでには、時間を要する。例えば、ABCやVFDにおいて単にこれらだけを見せられたのでは、もともとが表音性の文字の組合せゆえに漢字の表意性とは異なり、その意味は把握しにくい。

形音義には3つの要素がある。

形…字体

音…読み

義…意味

のそれぞれである。いま注目したいのは、第3の義(「意味」)である。記号化された3頭字略語には義に対応するものは見られない。

「旅」という漢字は実に嬉しい。それは文字の傍部分に潜む義に面白味があるからである。

「旅」が「方人人人」のようになる。…「ハタ」を持ったガイドのあとにぞろぞろ続いていく、…。と、武部良明は、『文字表記と日本語教育』に述べている<sup>2)</sup>。漢字には、形音義の義(意味)としての重要な要素が含まれていることの良い例といえよう。

これに関連して、ここで扱っている頭字略語について考えてみると、例えば、

ABC → infoA infoB infoC, Activity Based Costing, Asynchronous Basic Control

VFD → Virtual Fashion Design

であれば、単語の意を介してそのおよその意味を掴まえられなくもない。

ここに比較材料がある。「～新聞や雑誌に使われている単語は、年間およそ3万語…。しかし、その50～60%は、年間使用度数1です。」と、『日本語練習帳』にある<sup>3)</sup>。

1回しか使われない単語が、6割にも近いとすれば、いま指摘した『DC』の結果とは随分な開きである。これは、一般語と情報技術に絞られた専門用語との相違という点だけで割り切れるものであろうか。そのような理由から、いつも元の語を提示していたのでは、abbreviateする本来の目的が果たせない。

### 4. 3文字略語の考察

Semiotics・Semiologyは、Sign Languageとして記号学とか記号論とかの意味で用いられる。これは意志伝達手段としての語用論、意味論にも通ずるものである。

記号論を扱うには、記号、意味、対象の3つを定式化する。そして、これらをもって何らかの意志疎通を成立させることが目的であり、それを活用して精神活動の場を広げる、

と解釈する。この定式化によれば、情報の発信者と受信者がそこに存在することが見えてくる。これを A, B とする。このとき、

A→記号→B

で、記号は意味をもち、対象を限定している。

ベンゼの記述方法によれば、 $ZR = ((M \Rightarrow O) \Rightarrow I)$  の関係である。ここに、M=媒介、O=対象、I=解釈である。ZR は、三項関係にある記号である<sup>4)</sup>。

これが、いまみてきた3頭字略語の基本作用である。A と B は、記号を介して同一の対象を認識する。新しい記号、初出の記号は信号として昇華せず指標に止まることもある。情報技術(IT)は、本来そのような性質を帯びている。「反復可能性」や「記号が指示する対象とかかわりをもたない人たちは、その記号を理解できない。」というのも頷ける<sup>5)</sup>。

最後に、initialism としての3文字に少し触れる。CAD [kæd] とか LAN [læn] とかいうものである。これらの発音は、およそ [ ] のとおりである。[si:, ei, di:], [el, ei, en] ではなく、この点で当稿の「はじめに」で述べたことに矛盾する。これについては、第2, 3文字が母音になると aeiou で、発音においても簡略の傾向がみられることを附記しておきたい。この仲間には、POS や ISO など他にも挙げることができる。同じ考えで行くと EMI は、<sup>まみ</sup>[emi] で内容に似合わずほほえましいものとなる。

## おわりに

3つの単語の頭字を並べる語として Abbreviation を捉えると、これに適合しない変形がある。WBI や IRQ, そして XML である。そのようなものも含め3文字略語の概略を『DC』データから眺めてきた。コミュニケーションの仲介には、もともと略された形で成立させようとするエネルギーの極小化現象がみられる。つまり、目的を果たすには、Father は Papa でも Pa: でもよいのである。現代社会の時間短縮への衝動か、「気持ち悪い」が「きもい」で通る短絡化の言語社会である。附表に示した Abbreviation の数の多さとその扱いようについて考えるとき、一つの思いにいたるのである一。これらが何の抵抗もなく受け入れられる世界が、情報技術(IT)に支えられる社会である、というと言い過ぎであろうか。

## 引用・参考文献

- 1) ピーター・マシューズ編、大手健訳、『ギネスブック'96』、P236、騎虎書房、1995年
- 2) 武部良明著、『文字表記と日本語教育』、P118、凡人社、1991年
- 3) 大野 晋著、『日本語練習帳』P21、岩波書店、1999年
- 4) Elisabeth Walther 著、向井周太郎・菊池武弘他訳、『一般記号学 パース理論の展開と応用』P55、勁草書房、1987年
- 5) 同上、P56、P58
- 6) 青木信雄他共同解説、『現代用語の基礎知識』、自由国民社、1999年
- 7) 武藤一夫著、『実用 CAD/CAM 用語辞典』、日刊工業新聞社、1998年
- 8) 石綿俊雄編、『基本外来語辞典』4版、東京堂出版、1998年
- 9) 加藤大典編著、『略語大辞典』、丸善(株)、1995年
- 10) 富田和夫編、『コンピュータ英和和英辞典』、共立出版、1993年(第2版)
- 11) 竹野萬雪編、『情報通信略語辞典』、日刊工業、1990年

附表 3文字略語表(1)

ABC	infoA infoB infoC	CTO (006)	Canceled To Order
ABS	Asset Backed Security	CUI (002)	Computer User Interface
ACD (004)	Auto Call Distribution	CVM	ConVenience Mart
ACT (004)	Active Computer Telephony	CVS (003)	ConVenience Store
ADC	Analog to Digital Converter	DAC	Digital to Analog Converter
ADF	Advertising Distribution Format	DAO	Data Access Object
ADO	Active Data Objects	DAT (002)	Dynamic Address Translation
ADP	Automatic Data Processing	DDL	Data Description Language
AGP (003)	Accelerated Graphics Port	DDP	Distributed Data Processing
AIM	Alternative Investment Market	DDR	Dance Dance Revolution
AIT (004)	Advanced Information Technology	DDS (008)	Disc Device Server
AMR	Audio Modem Riser	DES	Data Encryption Standard
AMS	Access Method Services	DFP	Data Facility Product
APM	Advanced Power Management	DIB	Direct I / o Bridge
APS (002)	Application Processing Service	DIN	Deutsche Industrie Normen
ARM	Asynchronous Response Mode	DLP (005)	Digital Light Processing
ARS	Automated System Recovery	DLT (008)	Disc Load Tape
ASA	American Standards Association	DMA (003)	Digital Meeting Assistant
ASL (002)	Application Segment Logic	DMD (003)	Digital Micromirror Diode
ASP (084)	Application Service Provider	DMI	Desktop Management Interface
ATA (002)	American Translators Association	DMM	Digital Multi Meter
ATM (016)	Asynchronous Transfer Mode	DNA (003)	Digital Network Architecture
ATM (013)	Auto Teller Machines	DNS (006)	Domain Name Server
AVI	Audio Visual Interface	DOA (002)	Data Oriented Approach
BBS	Bulletin Board System	DOS (021)	Disc Operating System
BDM	Board Debug Machine	DPE (003)	Developing Printing Enlarging
BOS	Basic Operating System	DPI (028)	Digits Per Inch
BPA	Basic Partitioned Access	DSL (004)	Digital Subscriber Line
BPR (010)	Business Process Reengineering	DSP (004)	Dynamic Support Program
BPS (052)	Bits Per Second (cf : Bytes~)	DSU (006)	Digital Service Unit
BSC (003)	Binary Synchronous Communication	DTD (002)	Document Type Definition
BSD	Berkeley Software Distribution	DTF (003)	Data Transmission Facility
BTO (006)	Build To Order	DTP (006)	Desk Top Publishing
CAD (018)	Computer Aided Design	DTV	Desk Top Video
CAE (003)	Computer Aided Engineering	DVB (003)	Digital Video Broadcasting
CAI	Computer Assisted Instruction	DVC (002)	Digital Video Camera
CAM (003)	Computer Aided Manufacturing	DVD (056)	Digital Versatile Disc
CBR	Case Based Reasoning	DVI	Digital Video Interface
CCD (026)	Charge Coupled Device	DWH (028)	Data Ware House
CCL	Customer Care Link	DXF	Drawing eXchange Format
CCM	Comtouch Custom Mail	EAI (017)	Enterprise Application Integration
CEO (030)	Chief Executive Officer	ECC (002)	Error Checking Correction
CFO (002)	Chief Financial Officer	ECM	Electric Condenser Microphone
CIA (002)	Central Intelligence Agency	EDA (002)	Electric Design Architecture
CIF	Corporate Information Factory	EDI (041)	Electronic Data Interchange
CIH	Chén yíng Háo	EDW	Enterprise Data Ware
CIO (002)	Chief Information Officer	EIP	Enterprise Information Portal
CMP	Cellular Multi Processing	EMI	Electro Magnetic Interference
CMS	Cross Memory Services	EMS (002)	Enterprise Management System
COM (003)	Component Object Model	EMV (002)	Europay Master Visa
COO	Chief Operating Officer	EOS (005)	Electric Ordering System
CPE	Consumer Premises Equipment	ERD	Emergency Repair Disc
CPS	Cycles Per Second	ERP (098)	Enterprise Resource Planning
CPU (102)	Central Processing Unit	ERX	Extended Router multipleXer
CRM (048)	Customer Relationship Management	ESM	Enterprise Security Manager
CRO	Communication Relation Officer	ESP	Engineering System Product
CRT (019)	Cathode Ray Tube	ESS (003)	Enterprise Storage Server
CSM	Corema System Management	ETC	Electronic Toll Collection
CSN	Converged Switch Node	ETL (003)	Enhanced Transceiver Logic
CSO	Chief Staff Officer	EUC (004)	End User Computing
CSS (018)	Client Server System	FAL (002)	Frame Application Logic
CTI (057)	Computer Telephony Integration	FAQ	Frequently Asked Questions

FAR	False Acceptance Ratio	LSI (004)	Large Scale Integration
FAT (002)	File Allocation Table	LTO (002)	Linear Tape Open
FCB	File Control Block	LTV	Life Time Value
FDD (027)	Floppy Disc Drive	LZH	Lemple Ziv Huffman
FET	Field Effect Transistor	MAC (002)	Media Access Control
FMO	Fujitsu personals Magnetic Optical	MAS	Microsoft Authorize Support
FOS (005)	Front Office Solution	MBA	Master of Business Administration
FPM	Fine Picture Mode	MBT (002)	MoBile Tool
FRR	False Rejection Ratio	MCA (002)	Multi Channel Access
FSB (002)	Front Side Bus	MDA	Microprocessor Development Aid
FSS	File Security System	MDB (002)	My Data Base
FTP (003)	File Transfer Protocol	MDF (002)	Main Distributed Frame
GDP (005)	Gross Domestic Product	MDM	Multimedia Direct Mail-service
GDS	Global Distribution System	MFH	Medium Frequency Hertz
GEM (002)	Global Enterprise Manager	MFP (003)	Multi Function Peripheral
GIS (004)	Graphic Information System	MHP	Multimedia Home Platform
GMR (002)	Giant Magnetic Resistance	MIX (002)	Mobile Internet eXchange
GPL	General Public License	MLA	Micro Lens Array
GPS (009)	Global Positioning System	MMC	Microsoft Management Console
GSM (015)	Global System for Mobile communication	MMD	Mobile Media Distribution
GTS	Global Telecommunication System	MMK	Multi Media Kiosk
GUI (015)	Graphical User Interface	MMX (002)	Multi Media eXtension
GUM	Gimp User Manual	MOM	Message Oriented Middleware
HCA	Host Channel Adapter	MOS (004)	Metal Oxide Semiconductor
HDD (067)	Hard Disc Drive	MOT	Microsoft Office Trainer
HPC	Hand Palm Computing	MPG	Moving Picture Group
ICS (002)	Internet Cashing System	MPM	Mobile Packet Module
IDC	Internet Data Center	MPP	Massively Parallel Processing
IDE	Integrated Device Electronics	MPU (012)	Micro Processor Unit
IHV (002)	Independent Hardware Vender	MSC	Multimedia Super Corridor
IIS (002)	Internet Information Server	MSN (003)	Micro Soft Network
IJP	Ink Jet Printer	MSP	Multi dimension System Product
IMD	Integrated Management Display	MSU	Memory Storage Unit
IME (002)	Input Method Editor	MVA	Multi domain Vertical Agreement
IMT	International Mobile Telecommunications	NAS	Netscape Application Server
INS (004)	Information Network System	NAS	Network Attached Storage
IOS	Intel Online Service	NIC	Network Information Center
IPL	Initial Program Loader	NNM	Network Node Manager
IPO (002)	Initial Public Offering	NOA	Noiseless Optical Amplifier
IPS	Internet Publishing System	NUI	Natural User Interface
IPX	Internet Packet eXchange	NVH	Noise Vibration Harshness
IRQ	Interrupt ReQuest	OCR (007)	Optical Character Reader
ISA (008)	International Standards Architecture	ODM	Overseas Development Manufacturing
ISO (022)	International Standards Organization	ODN (002)	Open Data Network
ISP (031)	Internet Service Provider	OEM (025)	Original Equipment Manufacturer
ISV (002)	Independent Software Vender	OHP (002)	Over Head Projector
ITS (005)	Intelligent Transport System	OLE (002)	Object Linking Embedding
IVR (010)	Interactive Voice Response	OLU (002)	Optical disc Library Unit
JAN	Japan Article Number	OMF	Onkyo Micro Fiber
JIS (004)	Japanese Industrial Standards	OSD	Office Secretary Defense
JIT	Just In Time	OSS (003)	Operation Support System
JPO	Joint Program Office	PAT	Punch Avalanche Transistor
KVA (008)	Kilo Volt Ampere	PBS	Public Broadcasting Service
KVM (003)	Keyboard Video (monitor) Mouse	PBX (025)	Private Branch eXchange
LAN (102)	Local Area Network	PCI (026)	Protocol Control Information
LAR	Large Account Resale	PCM	Plug Compatible Manufacturer
LBP (019)	Laser Beam Printer	PDA (031)	Personal Digital Assistant
LCA (002)	Life Circle Assessment	PDC (006)	Personal Digital Cellular
LCD (013)	Liquid Crystal Display	PDF	Portable Document Format
LED (006)	Light Emitting Diode	PDM (003)	Production Data Management
LFN	Long File Name	PDP (004)	Plasma Display Panel
LIC	Last In Chain	PDS	Public Domain Software



PHS (090)	Personal Handyphone System	STB (005)	Set Top Box
PIM (002)	Personal Information Manager	STN	Super Twisted Nematic
PIN	Personal Identification Number	STP	Shielded Twisted Pair
PIP	Partner Interface Process	SVC	Switched Virtual Channel
PKI (004)	Public Key Infra	SVP	SerVice Processor
POD (005)	Print On Demand	TCM	Thermal Conduction Module
POI	Point Of Interface	TCO (036)	Total Cost Ownership
POP (010)	Point Of Purchase	TCP (010)	Transmission Control Protocol
POS (036)	Point Of Sales	TCT	Target Cycle Time
PPC (006)	Plain Paper Copier	TDR	Transferable Development Rights
PPM (029)	Page Per Minute	TDT	Telephone Data Terminal
PPP (004)	Point to Point Protocol	TFT (019)	Thin Film Transistor
PPT	Power Point	TLC	Third Level Cache
PSD	Power Spectrum Density	TMA	Tivoli Management Agent
PSM	Policy based System Management	TMN	Telecommunication Management Network
PTV	Projection TV	TMR	Triple Module Redundancy
PWM	Pulse Width Modulation	TSE	Terminal Service Edition
QIC	Quick Information Copy	TSM	Tivoli Storage Manager
QOS (002)	Quality Of Service	UHF	Ultra High Frequency
RAM (028)	Random Access Memory	UHP	Ultra High Power
RAS (006)	Remote Access Server	UID	User IDentification
RDA	Record Delivery Area	UIM	User Id Module
RDB (004)	Relational Data Base	UMS (002)	Unified Message System
RDP	Relational Database Processing	UPS (019)	Uninterruptible Power Supply
RFM	Recency Frequency Monetary	URL (005)	Uniform Resource Locator
RGB (008)	Red Green Blue	USB (057)	Universal Serial Bus
RIP	Raster Image Processor	VAN (007)	Value Added Network
ROC	Raid On Chip	VBA (003)	Visual Basic for Application
ROM (111)	Read Only Memory	VBS (002)	Visual Basic Script
RPC	Remote Procedure Call	VCO	Voltage Control Oscillator
RPM (002)	Revolution Per Minute	VFD	Virtual Fashion Design
RSA	Register Save Area	VGA (007)	Video Graphics Array
RSC	Retail Support Consultation	VHF	Very High Frequency
RTT	Radio Telegraph Technology	VHS	Video Home System
SAN (010)	Storage Area Network	VIA	Videotex Industry Association
SAP (003)	Service Access Point	VLS	Vender Logo Software
SBA	Security Business Alliance	VNP	Video Network Platform
SCD	Security Control Device	VOD (002)	Video On Demand
SCM (052)	Supply Chain Management	VPN (006)	Virtual Private Network
SCN	Supply Chain Network	VRA	Video Random Access
SCP	Screen Control Program	VTR (002)	Video Tape Recorder
SDH	Synchronous Digital hierarchy	WAN (021)	Wide Area Network
SDP	Screen Definition Processor	WAP (016)	Wireless Application Protocol
SDR	Segment Descriptor Register	WBI (003)	Web Based application Integration
SET (003)	Software Engineering Toolkit	WBT (007)	Windows Based Terminal
SFA (037)	Sales Force Automation	WDM (003)	Wave Divide Multiple
SFE	Sales Force Empowerment	WLL (003)	Wireless Local Loop
SIU	Smart Internet Usage	WML (002)	Wireless Markup Language
SLA (002)	Service Level Agreement	WSA	Web Sales Agent
SLM	Service Level Management	WSH	Windows Scripting Host
SMM	Server Monitor Module	WTS (002)	Windows Terminal Server
SMP (007)	Symmetrical Multi Processing	WWW (039)	World Wide Web
SMR	Super Micro Raid	XGA (014)	eXtend Graphics Array
SMS (003)	Short Message Service	XML (026)	eXtensible Markup Language
SNA (002)	Storage Area Network	XQL	XML Query Language
SOL	School On Line	XSI	eXtensible System Integration
SOP	System Operation Service	XSL	eXtensible Stylesheet Language
SPX	Sequenced Packet eXchange	XSP	eXtended dimension System Product
SQL (019)	Standard Query Language*		
SSL (002)	Secure Socket Layer		
SSP (002)	Solution Square Project		
SST	Sharp Space Town		

\*JIS は、「Structured」を採用し略語としない。

(注)原語の取り方については、ゆれもある。

## Initialism of 3–Letter Words Abbreviated on *The DC*

Hiroyuki INOUE

*Library,*

*Kurashiki University of Science and the Arts,*

*2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan*

(Received September 30, 2000)

Nowadays, our media world of mass communication is filled with words of IT (Information Technology). Since 1987, *The DC* (Data Communication) has been published in Japan. *The DC* is a weekly paper in tabloid form. So we can have a lot of knowledge of new initialism concerned with advanced IT.

Some words of them are always abbreviated into 3–letter words. We have sampled a variety of abbreviations which consist of 3 initial letters, in particular, of a series of words to examine a real state of using such abbreviations.

The conditions of this sampling are as follows :

- ①Term : from 1999. 7. 5 to 2000. 6. 26 (a year of 49 weeks)
- ②Had both caption and article the same initialism, the frequency is regarded as one.
- ③Excepting the next ; name of companies or products, ads, and  
such as Y2K, R&D, TOP or Web.
- ④Excepting www which appears in the end of articles.

Result : the frequency of all initialisms amounts to 2,520.  
the sort of the initialisms is 368.

They can be classified into three main groups.

**G<sub>L</sub> : Large group accounting for 60%, up to 30 in order of the frequency**

**G<sub>M</sub> : Middle group for about 30%, plural appearances during a year**

**G<sub>S</sub> : Small group for less than 10% , the initialism appears just one time a year**

And we have also shown the frequency of the initialisms of classification of the alphabetical order A,B,⋯,Z in a histogram. The first order of appearance of the initialisms was ROM. A letter of the top class that has occupied the most kinds among 3–letter abbreviations was the alphabet D. The class of limits HAA–HZZ presented the highest value : a ratio of the number of tally marks to sorts of the initialism.

In this paper, though they are minor ones, some other results of examining the samples from *The DC* are also introduced in addition.